

# フォーラム・NARA 第1回「日本文化の源流を探る」

開催日：2017年9月23日(土・祝)

開催場所：奈良県文化会館



## ● 実施状況

『フォーラム・NARA』は、大会の4つのテーマを切り口に、奈良県がこれから取り組むべき文化戦略等について考える契機とすることを目的に全4回開催しました。

第1回は「日本文化の源流を探る」を切り口に、奈良発祥とされる文化を通して日本文化の源流を探り、日本文化のはじまりと現在、そして未来に向けて考えました。

実行委員会会長である荒井正吾奈良県知事による主催者挨拶の後、テーマ解説として、東京大学特任教授の古井戸秀夫氏が映像を交えながら芸能の歴史を振り返り、日本文化の源流が奈良にあることについて解説しました。

トークセッションⅠでは、「はじまりの地・奈良～日本文化の源流」をテーマに、能楽師の亀井忠雄氏と古井戸秀夫氏が意見交換を行い、トークセッションⅡでは、「源流から未来へ～日本文化のこれから」をテーマに、歌舞伎俳優の市川九團次氏、津軽三味線奏者の上妻宏光氏、古井戸秀夫氏が意見交換を行いました。

フォーラムの締めくくりには、「日本の芸能～源流と未来」をテーマに、亀井忠雄氏による鼓の披露の後、上妻宏光氏による津軽三味線の単独の演奏、市川九團次氏と上妻宏光氏による歌舞伎舞踊と津軽三味線のコラボレ-

ションを披露しました。

ご来場いただいた皆さまには、日本文化の歴史を振り返るとともに、文化の新しい可能性を体感していただく機会となりました。

### 【プログラム】

■主催者挨拶 荒井正吾

(第32回国民文化祭奈良県実行委員会会長  
第17回全国障害者芸術・文化祭実行委員会会長  
奈良県大芸術祭実行委員会会長 奈良県知事)

■テーマ解説 古井戸秀夫(東京大学特任教授)

■トークセッションⅠ「はじまりの地・奈良～日本文化の源流」 亀井忠雄(能楽師)・古井戸秀夫

■トークセッションⅡ「源流から未来へ～日本文化のこれから」 市川九團次(歌舞伎俳優)・上妻宏光(津軽三味線奏者)・古井戸秀夫

■スペシャルプログラム「日本の芸能～源流と未来」 市川九團次・上妻宏光・亀井忠雄

### 【主催】

文化庁、厚生労働省、奈良県、第32回国民文化祭奈良県実行委員会、第17回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、奈良県大芸術祭実行委員会

# フォーラム・NARA 第2回「文化の今を楽しむ」

開催日：2017年10月15日(日)

開催場所：春日大社 感謝・共生の館

©この時代の双葉社 / 「この世界の片隅に」製作委員会



## ● 実施状況

『フォーラム・NARA』第2回は「文化の今を楽しむ」をテーマに、“クールジャパン”として海外で評価の高いアニメーションなどの日本の現代文化と古くから現在まで脈々と受け継がれてきた伝統文化の両方をお楽しみいただきました。

第一部では、いま最も注目されているアニメーション映画監督・片渕須直氏を迎えて、日本アカデミー賞最優秀アニメーション作品賞を受賞した片渕監督の作品『この世界の片隅に』を上映の後、日本文化や現代アニメの楽しみ方、『この世界の片隅に』の制作秘話など、特別講演・作品解説を行いました。特別講演では、片渕監督より「場所には今は見えない歴史が積み重なっている」など、まさに第2回のテーマである文化の今の楽しみ方をわかりやすく伝えられました。

第二部では、会場となりました春日大社にて御本殿の特別参拝と献灯体験を実施し、古から受け継がれてきた日本文化を感じていただきました。

雨の中ではありませんでしたが、ご来場の皆さまには、日本文化が持つ魅力を体感していただいたシンポジ

ウムとなりました。

## 【プログラム】

### ■第一部

『この世界の片隅に』特別上映  
特別講演・作品解説：片渕須直  
(アニメーション映画監督)

### ■第二部

御本殿特別参拝・献灯体験

## 【主催】

文化庁、厚生労働省、奈良県、第32回国民文化祭奈良県実行委員会、第17回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、奈良県大芸術祭実行委員会



# フォーラム・NARA 第3回「障害のある人となない人の絆を強く」

開催日：2017年11月5日(日)

開催場所：かしはら万葉ホール



## ● 実施状況

『フォーラム・NARA』第3回は「障害のある人となない人の絆を強く」をテーマに、芸術文化活動を通して交流を深め、「障害のあるなしに関係なく互いを認め合うこと」について考えました。

まずはじめに、聴覚障害を持ちながらダンスアーティスト・振付家として世界各国で活躍する南村千里氏が、海外での活動や、パフォーマーとして参加した2012年ロンドンパラリンピック開会式などについて手話で講演しました。

続いてのトークセッションでは、南村氏と、国際障害者交流センター ビッグ・アイ アーツ・エグゼクティブプロデューサーの鈴木京子氏が登壇し、「障害のある人となない人の絆を強くするために必要なこと」などについて語るとともに、障害のあるなしに関わらず、純粋に“人と人との関係”を築くことが重要で、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けてもそういった視点を持つことが大事である、との意見が交わされました。

来場者全員参加の「音楽を使わないムーブメントワークショップ」では、音に頼らず五感を研ぎ澄ま

すことで、隣の人に動きを伝えたり、合図・きっかけがなくても全員の動きをそろえることができる不思議な感覚を体感いただきました。

## 【プログラム】

- 基調講演 南村千里(ダンスアーティスト・振付家)
- トークセッション 南村千里  
鈴木京子(国際障害者交流センター ビッグ・アイ アーツ エグゼクティブプロデューサー)
- ワークショップ  
「音を使わないムーブメントワークショップ」

## 【主催】

文化庁、厚生労働省、奈良県、第32回国民文化祭奈良県実行委員会、第17回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、奈良県大芸術祭実行委員会

# フォーラム・NARA 第4回「文化芸術立国の礎を築く」

開催日：2017年11月18日(土)

開催場所：大神神社 大礼記念館



## ● 実施状況

『フォーラム・NARA』第4回は「文化芸術立国の礎を築く」をテーマに、日本を代表する演出家・宮本亜門氏と、奈良県出身のアーティスト・高谷史郎氏が、「日本文化はじまりの地・奈良」の未来をどのように演出すれば良いかについて語りました。

まず最初に、三輪山を御神体とし、山を拝するという原初の神祀りの様を今に伝えている大神神社を会場にしていることから、大神神社権禰宜の池田陽一氏が同社の縁起を解説、続いての基調講演では、宮本氏が「ニッポンを演出する」と題し、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、日本の伝統文化と最新のテクノロジーを融合させ、日本文化を世界に発信している実績を紹介しました。

その後のトークセッションでは、高谷氏が自身の作品のプレゼンテーションを行った後、宮本氏、高谷氏という世界を舞台に活躍する二人が、日本文化の海外に向けての発信において、日本文化はじまりの地である奈良県のもつ文化力の魅力や可能性について意見を交わしました。

県内在住者が多くを占めた来場者にとっては、今回のフォーラムによって、奈良県の文化力を再認識する機会となりました。

### 【プログラム】

- 大神神社ご縁起解説  
池田陽一(大神神社権禰宜)
- 基調講演「ニッポンを演出する」  
宮本亜門(演出家)
- トークセッション  
宮本亜門・高谷史郎(アーティスト)

### 【主催】

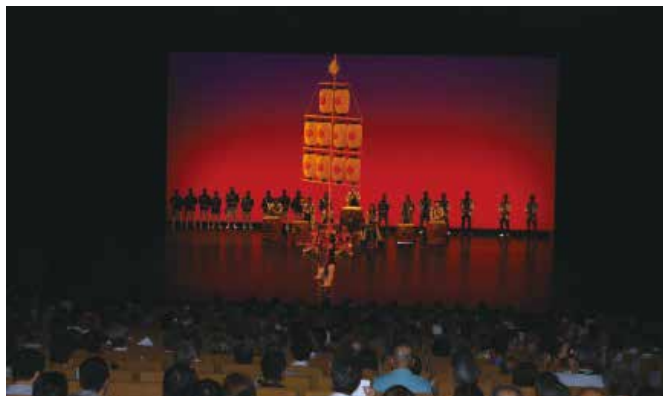
文化庁、厚生労働省、奈良県、第32回国民文化祭奈良県実行委員会、第17回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、奈良県大芸術祭実行委員会



# 農村文化の魅力を未来へ伝えるシンポジウム

開催日：2017年9月10日(日)

開催場所：なら100年会館



## ● 実施状況

奈良県の農村に受け継がれてきた伝統祭事を紹介するとともに、伝統祭事を育ててきた農村文化の魅力を発信し、未来へ伝えるためのシンポジウムを開催しました。多くの方に農村文化の魅力を知っていただける機会となりました。

オープニングでは、五穀豊穡・家内安全を祈願して行われる御所市鴨都波神社の伝統祭事「ススキ提灯献灯行事」(奈良県無形民俗文化財)を披露しました。基調講演は「農村文化と地域活性化」と題し、農村文化には大きな魅力があり、これらを大切に残すとともに、農村自身がこれに誇りを持つことで地域の活性化に繋がるとお話しいただきました。

県で作成した「農とつながる伝統祭事」のビデオ上映の後、「農村文化の魅力を未来へ」と題してパネルディスカッションを行いました。県内で活躍される伝統文化や食、農の専門家より、農村文化の魅力とそれを未来へ伝えるための提言、意見交換をいただき、興味深い議論が展開されました。

会場エントランスでは県内の伝統祭事に実際に使用されている祭具(幡や提灯、法被など)が展示され、

紹介パネルとともに来場者の興味を引いていました。本事業は、農村文化について考えていただく確かなきっかけになったと考えています。

## 【プログラム】

- オープニング ススキ提灯献灯行事(鴨都波神社)
- 主催者挨拶 奈良県知事 荒井正吾
- 基調講演 「農村文化と地域活性化」  
(株)日本総合研究所 藻谷浩介氏
- ビデオ上映 「農とつながる伝統祭事」3事例
- パネルディスカッション「農村文化の魅力を未来へ」  
パネリスト 石村由起子氏  
岡本彰夫氏  
三浦雅之氏
- コーディネーター 藻谷浩介氏

## 【主催】

文化庁、厚生労働省、奈良県、第32回国民文化祭奈良県実行委員会、第17回全国障害者芸術・文化祭実行委員会

# 食文化シンポジウム～はじまりの奈良～

開催日：2017年9月17日(日)

開催場所：奈良春日野国際フォーラム 麓～I・RA・KA～



## ● 実施状況

「食文化シンポジウム ～はじまりの奈良～」は、大会のテーマのひとつである「日本文化の源流を探る」を踏まえ、奈良を発祥とする食文化の源流と将来への可能性を探ることを目的に開催しました。

講演①では、「柿の歴史と御所柿」をテーマに、中国から奈良へ伝わった柿がどのように広まり、どのように栽培技術を進化させてきたのか、その歴史、経緯についてとともに、奈良発祥の御所柿についての講演を行いました。講演②では、「柿の葉ずしと柿の葉」をテーマに、まずはじめに柿の葉ずしが生まれた経緯と現代までの歴史についてお話しし、続いて柿の葉の茶葉やコスメへの活用の取り組みについて講演を行いました。講演③では、「大和茶とやまとみどり」をテーマに、奈良で栽培が始まったとされるお茶の栽培技術と文化としての茶の歴史についてお伝えするとともに、奈良県で育成された幻の品種「やまとみどり」の取り組みについて講演を行いました。また、ご参加の皆様には、「やまとみどり」を試飲いただきました。シンポジウムでは、「食文化を受け継ぐために、すべきこと。」をテーマに、奈良発祥

の各素材及びその食文化について、どのように生かしていき、受け継いでいくのかについて、議論を行い、深く考える場となりました。ご参加いただいた皆さまには、奈良の食文化の歴史と継承について一緒に考えていただく機会となりました。

### 【プログラム】

- 講演①「柿の歴史と御所柿」  
濱崎貞弘(奈良県農業研究開発センター 統括研究員)
- 講演②「柿の葉ずしと柿の葉」  
平井宗助(合同会社ほうせき箱 代表社員)
- 講演③「大和茶とやまとみどり」  
瀬川賢正(奈良県農業研究開発センター 大和茶研究センター所長)
- シンポジウム「食文化を受け継ぐために、すべきこと。」  
コーディネーター 三浦雅之(株式会社 粟)  
パネリスト 濱崎貞弘、平井宗助、瀬川賢正、門上武司(奈良フードフェスティバル実行委員長)、福吉貴英(奈良食べる通信 編集長)

### 【主催】

文化庁、厚生労働省、奈良県、第32回国民文化祭奈良県実行委員会、第17回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、奈良県大芸術祭実行委員会、奈良フードフェスティバル実行委員会



# 日本アートマネジメント学会 第19回全国大会〈奈良〉

開催日：2017年11月25日(土)・26日(日)

開催場所：奈良春日野国際フォーラム 薨〜I・RA・KA〜



## ● 実施状況

文化芸術に関わる人材育成事業の集大成として、アートマネジメントの実務家や研究者で組織する日本アートマネジメント学会の全国大会を奈良県で初めて開催しました。「未来を生き抜くアートの現場」を大会のテーマとして、シンポジウム、ミニ公演、研究発表・実践報告、招待フォーラムなど多様なプログラムを2日間にわたり実施しました。1日目は、シンポジウム①「オモロい『コト』のつくり方ーアートマネジメントって仕事になるん？」を実施し、奈良県の市部と農村部、関西の地方都市で働く3名の事例と研究者からの話題提供をもとにアートマネジメントを起点とした「働き方」の可能性や課題について議論を行いました。次にシンポジウム②では、「アートプロジェクトの可能性と未来ーオリンピック・パラリンピック2020以降を見据えて」をテーマに、アートプロジェクトに関わる地域や人に焦点を当て、今後のあり方についての議論を行いました。

この他、会場内の能楽ホールを活用し、能楽の体験ワークショップや普段能楽ホールでは行われない実験的な現代音楽家や舞踏家によるミニ公演「能舞

台に出会う」などを実施しました。2日目は、学会員によるアートマネジメント分野の研究発表や実践報告、招待団体による招待フォーラムなど、奈良県内外の研究者・実践者向けのプログラムを実施しました。ご参加いただいた皆さまには、様々な話題にふれていただき、アートの奥深さと可能性について考えていただく機会となりました。

### 【プログラム】

○11月25日(土) 13:00~17:00

挨拶 奈良県知事 荒井正吾

シンポジウム①「オモロい『コト』のつくり方ーアートマネジメントって仕事になるん？」

シンポジウム②「アートプロジェクトの可能性と未来ーオリンピック・パラリンピック2020以降を見据えて」  
能楽体験ワークショップ、ミニ公演「能舞台と出会う」

○11月26日(日) 9:40~17:00

研究発表・実践報告(分科会)、招待フォーラム、全体会(総括)

### 【主催】

文化庁、厚生労働省、奈良県、第32回国民文化祭奈良県実行委員会、第17回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、奈良県大芸術祭実行委員会、日本アートマネジメント学会